

3-9 美術館（圏域：全市域）

3-9-1 施設再編の方針

対象施設
別府市美術館
施設再編の方針
<ul style="list-style-type: none">▶ 休館は緊急避難的な措置ではあるものの、現建物は海沿いの都市計画公園内に立地し、老朽化等も著しいため抜本的な改修は見送り、当面は野口ふれあい交流センターを代替施設として活用します。▶ 美術館の今後の方向性について、別府市立図書館及び別府市美術館整備の基本構想のなかで検討します。

3-9-2 現状分析

① 施設の概要

美術品、美術工芸品及び民俗資料を陳列観覧に供し、美術品等に関する知識及び教養の向上と美術工芸の発展に資することを目的として設置されています。

現施設は、昭和 47 年に建築されたホテルを譲り受け、建物の半分を美術館として改装したものです。建物面積 3,391 m²のうち、美術館の占有面積は 1,531 m²です。展示室 490 m²、収蔵庫 40 m²、創作室・研修室 130 m²、歴史民俗資料展示室 350 m²などとなっています。

所蔵品は、福田平八郎の作品をはじめ、約 2,100 点の絵画や彫刻、工芸品があります。市美術展やグループ展などの会場としても利用されており、年間来場者数は約 1 万人です。平成 23 年度からは考古資料（946 点）を「野口ふれあい交流センター」に移設展示しています。

② ポートフォリオ分析結果

本用途は、市内に別府市美術館のみであり、比較対象がないことからポートフォリオ分析は実施していません。

品質状況については、築年数が 43.0 年であり、市全体の施設の平均築年数 33.6 年より古い施設となり、耐震化未対応の施設であるため、偏差値が低く算出されています。

供給・財務状況については、1 日あたり利用者数、および利用者あたり市負担額の指標により算出しており、今後は利用者数の増加、および利用料金の見直しにより運営を改善していくことが必要です。

台帳 番号	施設名称	占有面積 (㎡)	品質				平均 偏差値 (ハード)
			築年数 (年)	偏差値	耐震 対応率(%)	偏差値	
467	別府市美術館	3,391.7	42.0	43.0	0.0	30.0	36.5

供給		財務		平均 偏差値 (ソフト)
1日あたり 利用者数 (人/日)	偏差値	利用者あたり 市負担額 (千円・日/人)	偏差値	
21.0	—	726.2	—	—

図 38 各指標の基礎データ（美術館）

③ 老朽化の状況

築年数は40年以上が経過しており、老朽化が深刻な状況となっています。漏水なども発生しており、所蔵品への悪影響が懸念されます。耐震性にも問題があります。空調など、設備機器にも不具合が発生しています。

平成28年度熊本地震の影響により、館内の設備等に不具合が生じているため、平成28年7月から休館していますが、再開の目途は立っていません。休館中の代替施設として、野口ふれあい交流センターの研修室で企画展及び絵画教室を開催しています。

④ 利用状況

(i)年間利用者数

来館者数は、平成23年度までは3,500人程度と低迷していましたが、その後増加傾向にあり、平成27年度には1万人を超えました。しかし、隣接市等と比べて低い水準にあります。

(ii)イベント等の開催実績

別府市美術館は市全域さらには県内外からの利用を目論んで整備された施設ですが、地域の団体が主催するイベントが大半となっています。本施設の機能や特性を踏まえつつ、地域の芸術活動を支える拠点として本美術館を位置づけるなど、周辺自治体や県が所有する美術館との機能分担・差別化を図る必要があるといえます。